

産業に必要な電機を守り 現代社会を支える

電機機器の修理やメンテナンスの専門家

現代社会において電気がなければ暮らしは成り立ちません。電気の発見はいまから約200年前ですが、発電機や発動機といった機器で電気を積極的に利用できるようになるのはイギリスのファラデーが1831年に「電磁誘導の法則」を発見してからです。日本では江戸時代の終わり頃に、勝海舟らがオランダから贈られた電信機の実験をおこなっています。明治になり電気は通信、照明、動力用など、次々と新しい用途に使われていきます。家電製品も明治27年(1894年)に国産扇風機第1号機が誕生しました。

電気の普及は当然、電機機械のメンテナンスや修理を専門におこなえる人を必要とします。昭和9年に名古屋電業組合が創立され、昭和11年に電業組合から独立する形で愛知県電機工業組合が設立されました。戦争中統制組合となったこともありましたが、戦後は愛知県電機加修工業組合として再出発し、昭和33年に愛知県電機工業協同組合と名称を変更しました。

時代と共に変化する電機に対応

当初はモーターを中心とした電機機器のメンテナンスや修理が中心でしたが、時代の変遷と共に、組

合加盟企業の中から電機機器の製作、工事、販売、修理、メンテナンスなどそれぞれの分野



に業務を拡大あるいは特化していくところも現れました。電機機器もモーターだけではなく、コンプレッサー、溶接機、さらにはエレクトロニクス関係など、幅が広がっています。これら工場で使われる電機機器はその工場の心臓と同じです。メンテナンスがしっかりおこなわれていれば何10年も使い続けることが可能です。電機機器の修理は大半が手作業でおこなわれます。指先の微妙な感触と長年蓄えてきた知識と技能を駆使し修理します。こうした技能を伝承し、進歩の速い電機機器の知識を身につけるため組合は平成元年に愛知県電機技術工学院(愛知県電機技術振興会運営)を開校しました。また、組合員には中小企業が多いため、電機についての知識や技術だけでなく経営相談をおこなったり、それぞれの企業が得意とする分野の仕事を分け合うといったこともおこなっています。



DATA ■愛知県電機工業協同組合

所在地：中区新栄二丁目45-40

- ・昭和9年：名古屋電業組合を創立
- ・昭和11年：愛知県電機工業組合を設立
- ・昭和22年：愛知県電機加修工業組合として再出発
- ・昭和33年：愛知県電機工業協同組合に名称変更
- ・平成元年：愛知県電機技術工学院開校